

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
段階的に指導計画を立てたり、身近な学習教材を活用した。その結果、自分から進んで物事に関わろうとしたり、活動したりするなど関心や意欲をもって熱心に取り組むことができた。	日常生活での経験の個人差が大きく、自分から進んで物事にかかわれない児童もいる。また、授業の中で気付いたことを明確にしたり関連付けたりする力がまだついていない。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	意欲・関心をもって自然や人に関わる活動に取り組むことができているが、活動に関わる日常生活での経験については個人差が大きい。	幼稚園児や保護者・上級生などと一緒に行う活動をくり返し与えていくことで、親しい関わりが広がるようにする。
2年生	子供の意欲・関心は高く、熱心に取り組もうとするが、そこから得た気づきを明確化したり、関連付けたりする力はまだついていない。	時間ごとの振り返りや、単元のまとめの振り返りの時間を確保し、互いに体験したことや調べたことを伝え合い交流する中で、新たな活動へと課題を見付けることができるようにする。

●学校全体で取り組む内容

<p>1年生の初めの段階でスタートカリキュラムを取り入れ、特に生活科を中心として、合科的・関連的な指導の工夫を進め、指導の効果を一層高めるようにする。そして、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していけるような力をつけさせていく。また、具体的な活動や体験したことをその場限りのもので終わらせないように、言葉などによって振り返りを行い、無自覚だった気づきを自分の中で明確にしたり、それぞれの気づきを関連付けたりする。さらに、互いに伝え合い、交流する活動を行い、次の活動意欲へとつながっていくようにする。このように、体験したことや調べたことを伝え合い交流する中で、自分の思いや願いを意識し、新たな活動へと課題を見付けることができる。</p>
--